

シニア団体活動支援事業は、元気な高齢者が地域の活動に参加するきっかけをつくり、高齢者の社会参加と自主的活動を促進し、高齢者の生きがいと健康づくりを目的としております。この広報誌では、年齢を感じさせず、いきいきと活動している本事業登録団体をご紹介します。

原町ひばりハーモニカ愛好会

市町村	南相馬市原町区
連絡先	0244-221-8988
活動内容	ハーモニカ基本学習
代表者	会長 橋本俊信（はしもとしのぶ）
会員数	24名
年齢構成	60～85歳
活動場所	南相馬市ひばり生涯学習センター
日時	毎月第1・3金曜日 午後2時～4時
会費	1,000円／1か月

〈愛好会発足17年目をむかえて紡ぐ日々〉



自分が希望するパートに分かれて、1年間かけて練習をしていく。曲が完成していく達成感はひとしおである。



左から、副会長の高田富子さん、会長の橋本俊信さん、講師の林博太郎さん、副会長の桜井雅勝さん。

オーケストラのように4つのパートに分かれたハーモニカの音が重なり合い、一つの曲を紡いでいく。本会は平成13年から日本ハーモニカ芸術協会師範の林博太郎氏の指導のもと、月2回、2時間ほど、人によっては3時間ほどハーモニカの練習を行う。毎年皆で話し合った決めた「練習課題曲」を1年間かけて作り上げていく。

〈明るい雰囲気そのままハーモニカの奏でる音に〉



文化交流推進事業の一つである、福島市音楽堂で開催の「ふれあいオパールコンサート」には14年連続出場をしている。

会員の皆さんは「先生の指導があるからこそ」と言い、講師の林氏からは「全て皆さんから教わっている」という。会長の橋本氏からは「どの練習日も、楽しく明るい雰囲気になれている。普段の練習でも一方通行ではなく、皆で作っている」と話される。それではないか」と話される。それぞれがそれぞれの良さを伝えあっており、それがハーモニカの音に表

されている。愛好会はいつでも会員を募集しており、通常練習の1時間前から講師による基礎練習の時間も設けられているため、まずは見学に来てほしいとのこと。入会・問合せは、代表まで。

渡利すみえクラブ

市町村	福島市
連絡先	024-522-1435
活動内容	水墨画の学習
代表者	会長 佐藤昇一（さとうしやういち）
会員数	14名
年齢構成	61～88歳
活動場所	渡利学習センター
日時	毎月第4火曜日 午後1時～4時
会費	12,000円／1年＋実費

〈「すみえ」を学び合う場〉



前列右から2番目が、会長の佐藤昇一氏。



新作鑑賞会では会員が描いた画をもとに、会員全員の学びの場となっている。

「会長、ここはこの意味があった描いたんですよ」と、自分たちが描いた新作の鑑賞会（学習会）では会員同士、活発な意見や感想が飛び交う。昭和57年の設立以降、本会では特定の講師の指導を仰がずに、会員同士で知識・経験・知恵を出し合って学び合う場としている。それがゆえ、会員の個性を存分に発揮させながら活動は続けられてきた。月1回の活動やスケッチ会、秋の作品展示会には新人や経験者等関係なく、会員全員が出品する。

〈「すみえ」がたくさんの想像力を生み出す〉



「すみえ（墨絵）」は、墨の濃淡で全てが描かれる。また墨のみの表現は、多くの想像力を膨らませる力が必要とされる。その分、描き手の全てが活性化され、より画に対する意欲に繋がっているのではないかと、会長の佐藤氏は話されていた。受け身ではなく主体的に取り組みながらすみえをどんどん楽しんでいきたいという意欲に満ち溢れているのが本会の良さである。会員同士、切磋琢磨しながら磨きながらこれからすみえに挑み続けていきたいとのことであった。初心者も大歓迎、入会・問合せは、代表まで。

元気な町内会の活動報告（高齢者支え合いコミュニティ支援事業）

福島県では平成28年度から、元気な高齢者が身近な地域で社会活動に参加するきっかけをつくり、健康でいきいきと生活している町内会の取組を支援しています。本年度支援団体をご紹介します。

エクレール郡山自治会

〈エクレール郡山自治会について〉

郡山駅から北に2kmほどの所にある、平成5年に完成の全戸数220戸という市内でも大きな集合住宅である。住民も当初に比べて高齢化していること、また東日本大震災を経て住民同士のコミュニケーションの大切さが再認識され、平成29年に管理組合・自治会役員有志によって「エクレール郡山高齢化対策検討会」が年10回開催された。検討会の提言を基に、平成30年より各事業に取り組んでいる。



エクレール郡山自治会と管理組合理事である塩田幸男さんにお話を伺った。

〈地域に住む者として〉

マンションの施設を利用したスポーツ教室や趣味の会などを開催し、顔の見える関係づくりを行ってきた。今では教室終了後の住民同士の情報交換やおしゃべりの時間も増えてきている。

集合住宅といえどその地域の一つとして存在することには変わりはない。集合住宅内全体の交流を活発にしてよりよい関係にしていくことは、自分が住む地域を良くしていきたいという方向性へと繋がっていくということである。「マンションであれ一戸建てであれ、地域を良くしていきたいという気持ちは一緒です」と話されていたのが印象的であった。

市 町 村	郡山市		
代 表	会長 佐久間 昭（さくまあきら）		
加入世帯数	213世帯	所属人数	441名



「EK（エクレール）交流会だより」を作成し、回覧板やマンションの掲示板を利用して広報を行っている。



取材日は月に2回開催の「健康スポーツ教室」の日。女性だけでなく、男性の参加者も多く見られ、和気あいあいと行われていた。

神明町町内会

〈神明町町内会について〉

郡山駅から車で5分程度の場所にあり、小学校・中学校・高等学校に隣接、スーパーや病院などもあり非常に住みやすい環境である。そのため古くからの住民に加えて、集合住宅なども多く存在する。古くからの住民の高齢化と、新しい住民への町内会活動への理解および加入の増加が現在の課題となっている。

〈地域全体でさらなる住みよい街になるように〉

3年前より、高齢者を対象とした「いきいきサロン」を開催している。取材日は他の町内会のフォークダンスクラブの方を呼び、町内会圏域にとらわれず広く交流が図られた。また、今年は町内広報誌「しんめいちょう」を毎月発行し広く広報することで、加入世帯のみならず未加入者世帯に対する呼びかけを重点的に行った。住みやすい街であるからこそ、横のつながりをさらに広げる工夫をしていくことで、さらにいい街にしていきたい。そして、住んでいる住民のみならず、この地域に関わりのある人には誰でもいい街であると感じてもらえるよう、神明町町内会は歩んでいく。

市 町 村	郡山市		
代 表	会長 佐藤彰宏（さとうあきひろ）		
加入世帯数	359世帯	所属人数	1,550名



町内会会長の佐藤彰宏氏は「これからもサロンのような事業を通して交流を図ってきたい」と話されていた。

「いきいきサロン」では、健康講座なども併せて行われ、参加者は興味深く耳を傾けていた。



「しんめいちょうだより」により毎月、町内の掲示板を活用して広く広報を行った。写真を多くして、より見やすい工夫を行った。